様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年 １０ 月 ３０ 日現在

機関番号：１４６０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０４８０５

研究課題名（和文）中近世移行期における書院造の研究

研究課題名（英文）A Study of Shoin-zukuri in the Middle Ages Transitional Period

研究代表者
藤田　盟児（Fujita, Meiji）

奈良女子大学・工学系・教授

研究者番号：２０２４９９７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：中世の武家住宅における御成の機能配置を検討して、室町時代中期に会所で行われていた式三献、遊宴、演能、後遊、引出物が、室町時代末期に主殿の機能となり、安土桃山時代には広間の機能、江戸時代には数寄屋と広間に分担されたことを明らかにした。
また、足利義政が康正元年（1455）に改装した烏丸殿で、初めて会所の背後に常御所が雁行形に配置されることも明らかにした。
ついで戦護国時代の大名邸宅を遺構から確認し、室町時代の将軍邸で15世紀中期に発生した会所と常御所の機能と配置が、織豊期に主殿と常御所、広間と書院の機能と配置に変化することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
中世住宅の会所は長い研究史があるが、中近世移行期における会所の変遷と近世における消滅の理由は不明であった。これを本研究では、中世から近世にかけて主殿という建物の質的・機能的な変化があったことを明らかにして、それが近世になって主殿や広間が書院へ変化し、玄関機能の象徴であった中門が消滅して、平井聖のいう一列型平面形式の書院へと変化する理由が判明した。これによって中世と近世の日本の上層住宅史が連続することが示され、書院造という建築様式の生成プロセスが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Considering the arrangement of functions in samurai residences in the Middle Ages, Shikisanken, banquets, performances, after-plays, and gifts that were held at kaisho in the middle of the Muromachi period became functions of the main hall at the end of the Muromachi period, and became Azuchi-Momoyama. It clarified that the function of the hall was divided in the era, and that in the Edo period it was divided between the Sukiya and the hall.
He also revealed that for the first time in Karasuma-den, which Yoshimasa Ashikaga renovated in 1455, Tsunegosho was arranged in a flying geese pattern behind the kaisho.
Next, we confirmed the daimyo's mansion from the Wargokoku period from the remains, and the functions and layout of the kaisho and Tsunegosho that occurred in the middle of the 15th century in the shogun's residence in the Muromachi period. and change in placement.

研究分野：建築史

キーワード：武家屋敷　会所　主殿　広間　御成

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

日本住宅史は、古代・中世・近世の主要研究が別々の研究者によって担われ、その結果、たとえば中世住宅史と近世住宅史の間においては、会所の起源に対する見解の不一致や、近世住宅史の研究者が古代の寝殿造と近世の書院造の間に主殿造という様式を設定したことなどにより、不連続な状態のままになっていた。

とくに中世上層住宅における主殿は、近世上層住宅の主殿と名称が同一であることから、それに継承され、その拡大版が広間であると解釈されていることにより、中世住宅の主要な接客機能を担っていた会所は、近世住宅で同様の機能を担う広間に継承されることなく、ただ単に消滅したとされていた。

そこで、日本住宅史を通史とするためには、中世上層住宅における主殿と会所が、いかにして近世上層住宅の主殿、広間、ひいては書院へと継承されたかを明らかにしなければならない状態であった。

２．研究の目的

そこで、本研究の目的は、室町時代後半から江戸時代前期にかけて、会所、主殿、広間の３者の役割と機能を比較検討して、それらの関係を明確にすることである。

とくに近世大名住宅の広間の役割や機能が、中世上層武家住宅の会所に似ていることから、会所の機能と役割は広間に継承されたのではないかという視点を手がかりに、中世後半から近世前期にかけて上層住宅の各施設の機能や構成を、主に御成時の役割や機能の分担を主たる分析対象として検討し、中世の会所と近世の広間がつながる場合は、両者の中間に存在する中世から近世初頭にかけての主殿が、どのような役割を担い、どのような質的変化があったのかを検討する。

３．研究の方法

中世後半から近世前期にかけての御成の記録を基に、上層武家住宅の表向き殿舎のそれぞれの社会的意義と機能を分析し、その変遷を辿る。そのために同期間の御成記録を比較検討する。

具体的には、室町時代の御成を「諸大名衆御成被申入記」に代表される有職故実の儀式次第を基礎として「三好亭御成記」や「朝倉亭御成記」などのような個別例の儀式次第を位置づけることで、室町時代の御成次第の全体像を分析・整理し、既に史料収集を終えている鎌倉時代の事例と合わせて、中世の御成次第の変化や整合性を、御成時以外の会所や主殿の意味や機能との整合性も合わせて検討する。

次に、近世への移行期の変化については、平井聖氏や藤川昌樹氏の研究成果によれば 17 世紀前半に変革期があるので、その前後の時代、とくに中世との関係が問題となる織豊期の御成次第を明らかにすることに注力する。

そのために主殿の意味や機能がとくに変質した可能性がある織豊期の上層武家住宅について、その発掘遺構例と絵画史料を検討する。発掘遺構としては、戦国大名の住宅遺構として福井県一乗谷の朝倉館跡、神奈川県の後北条氏の小田原城館跡、岐阜県の岐阜城織田信長居館跡、広島県の北広島町に所在する吉川元春館跡、山口県山口市の大内氏館跡、大分県大分市の大友氏館跡などと、安土城と名護屋城の周辺に形成された大名屋敷や陣屋跡の遺構群も含めて検討し、敷地全体の配置計画と建物単体の平面形式や意匠、さらには遺物等の出土状況から、会所と主殿に相当する施設を確定し、その変化を中心とする上層邸宅の接客空間の変遷過程を明らかにする。

以上の検討の上で、会所・主殿・広間の３者の関係と、それらのもつ空間や意匠の意味を考察し、中世と近世の上層住宅の関係を明らかにして、日本住宅史の不連続性の解消に役立つ成果を得る。

４．研究成果

4-1. 主要殿舎の機能について

中世と近世の御成に関する史料を比較して、御成の際に必要な機能が、どの建物に託されていたかを明らかにした。具体的には、正続群書類従の「諸大名衆御成御成被申入記」等や、信長公記、ルイス・フロイスの『日本史』、近世初頭の徳川秀忠が加賀藩江戸上屋敷に御成した際の記録（『台徳院殿御実記』元和３年５月 13 日条）のように島津家や前田家のように戦国時代から継続する大名家に所蔵されている御成記を調べ、室町時代から江戸時代初期にかけての御成を比較検討し、それらに鎌倉時代の『吾妻鏡』にみえる将軍の御行記録を合わせて御成の儀式次第を比較する一覧表を次頁のように作成した。

これよれば、式三献から引出物までに使われた殿舎名や部屋名を比べると、中世には寝殿で行われていた式三献が、江戸時代には黒書院等の亭主の書院で行われるようになり、会所で行われていた能（猿楽）、遊宴、引出物が、広間で行われるように変化したことが判明し

た。
つまり、寝殿の機能は居所に移され、遊宴の機能は会所から広間に継承されたことが明白であり、広間の前身は会所であるということができる。その一方で、主殿は永禄期の足利義輝による三好邸への御成で使われている。
主殿は、鎌倉時代の武家住宅の客室であったデイに由来する広い客間を南面中央に配置していたが、近世の主殿は、中世に会所で発達した座敷飾りを上手に設置する続き間座敷に変化している。つまり会所の形式が中近世移行期に主殿に入ったのである。

御成一覧						
和暦	正治2	安貞2	天福1	嘉禎3	寛元1	
西暦	1200	1228	1233	1237	1243	
月/日	6月16日	7月23日	4月17日	4月22日	9月5日	
訪問者	頼家	頼経	頼経夫妻	頼経	頼経	
訪問先		田村山荘	小町西北邸	小町西北邸	大倉邸	
亭主	大江広元	三浦義村	北条泰時	北条泰時	後藤基綱	
訪問理由	庭園と蹴鞠	田園の遊覧	花見の連歌	御成御所新造の為	方違中の遊興	
門						
最初の建物名	山麓の新造屋	新造屋(渡廊付)	?	寝殿	?	
部屋名	?	?	東庭向きの部屋	南面		
そこでの儀式	勧盃・管弦・蹴鞠	翌日、笠懸・舞女		酒宴	和歌管弦の会	
調度						
第二の建物・部屋						
そこでの儀式					薄暮に猿楽に及ぶ	
調度						
その他の建物や	翌日還御	25日に還御		夜に時頼の元服式		
引出物の内容ほか	引出物は馬以下	剣・砂金・馬3頭		翌日還御に引出物		
	お供にも贈り物	鎧・弓矢・行騰			鶏鳴後の還御で贈物	
	会所の原型?山水立石の地				山陰で閑静な所。会所的。	

和暦	建長5	康元1	正嘉2	文応1	文永2	
西暦	1253	1256	1258	1260	1265	
月/日	1月3日	8月23日	5月29日	4月3日	6月23日	7月16日
訪問者	宗尊	宗尊		宗尊夫妻	宗尊	宗尊
訪問先	小町東北邸	常盤山荘	名越山荘	小町西北邸	最明寺邸	小町西北邸
亭主	北条時頼	北条政村	北条時章	北条重時	北条時宗	北条政村
訪問理由	年初の御成始	政村執権の後初	勝長寿院供養方違	宗尊の結婚	?	
門	南棟門		(御成ではない)			
最初の建物名	寝殿	?	新造檜皮葺屋	御所	寝殿	?
部屋名	妻戸の出居	出居	?	出居	?	出居
そこでの儀式	盃酌・御遊	三献		盃酒・引出物	三献	三献・酒宴
調度	菓子・瓶子・鯉	衣16具のの衣架		衣26具の衣架		
	色革・羽	菓子棚・絹紙扇の広蓋		夫人に蓬莱の風流		
		供御6本				
第二の建物・部屋	寝殿の東向	泉屋				
そこでの儀式	三献・引出物	女房と遊宴				
調度	(食事もここ)	屋形船の飾物				
その他の建物や						
引出物の内容ほか		引出物は通常		女房に絹、		
		女房へ衣など、供侍へ沓行騰の贈物		公卿剣、殿上人馬、5.6位沓と行騰		
		5/8条に檜皮葺屋以下数字を新造とある。				常居所から娘が出立

和暦	義持代	永享4	文明年間	永禄4	永禄11	元和3	官営6
西暦	(仁木氏による)	1432	「諸大名衆御成被申入記」	1561	1568	1617	1629
月/日	正月	4月28日		3月3日	5月17日	5月13日	2月26日
訪問者	将軍	後小松上皇	義政	義輝	義昭	秀忠	家光
訪問先	守護大名邸	三条坊門殿	細川・畠山・飯尾など	三好邸	一乗谷朝倉邸	江戸加賀藩邸	同左
亭主	管領ほか7家	義教	各亭主	三好義長	朝倉茂景	前田	前田
訪問理由	年初		年初や代始	臨時	臨時		
出入口				西冠木門	御門	数寄屋	数寄屋
最初の建物名	寝殿	寝殿	寝殿	主殿	寝殿(中門付き)	御書院	黒書院
部屋名				奥の四間	?		
そこでの儀式	式三献	三献・引出物	式三献	式三献	式三献	三献・祝膳	祝義の盃
進上物	剣と馬進上	剣と馬進上	剣・弓矢・鎧・馬	四間で剣	剣・弓・鎧・馬	熨斗・拝領物	進上・拝領物の贈答
調度				鎧・弓・座敷飾			
			(中門の内の公卿座で馬御覧)	(入口の妻戸で馬御覧)			
第二の建物・部屋	会所	東御会所	会所	表の九間	会所	御広間	白木書院
そこでの儀式	振舞・猿楽・換拶	三献・引出物	振舞・猿楽・換拶	三献・湯漬・菓子	三献・湯漬・菓子	進上・能・御礼	15献(膳)・進上物
	進上・引出物の贈答	衣服・剣・金銀・檀紙	進物は	相伴衆は次の間	御座敷で能	進上物	
	振舞は7～21献		振舞は15献が標準	(一旦、休息所へ)			
その他の建物や		新造会所	会所では四献目から肴、湯漬、	(表の九間に戻る)		(御書院に戻る)	御広間
引出物の内容ほか		十二間	菓子を添え、また五献目から能を	能		15献(膳)・進上物	能・進上物
		十二献・引出物	始めるが、定法なし。	剣・弓・唐物など進上		(御広間に戻る)	
		衣・剣・唐物・檀紙	古くは菓子の時に茶湯も出した。			能	

4-2. 戦国時代の主殿と会所

施設の配置や平面形式を検討しうる戦国大名の住宅遺構として、福井県一乗谷の朝倉館跡、神奈川県の後北条氏の小田原城館跡、岐阜県の岐阜城織田信長居館跡、広島県の北広島町に所在する吉川元春館跡、山口県山口市の大内氏館跡、大分県大分市の大友氏館跡などと、それらに加えて安土城と名護屋城の周辺に形成された大名屋敷や陣屋跡の遺構群も含めて、発掘調査報告をもとに地層や断面を考慮しながら、敷地全体の配置、建物の平面形式、遺物等の分布状況から、会所と主殿に相当する施設を推定した。

4-2-1、朝倉館跡

一乗谷朝倉氏遺跡朝倉義景館跡庭園

所在地　福井県福井市城戸ノ内町

構成要素　池・滝・護岸石組・中島・石橋・建物・花壇

館跡遺構実測図

38

一乗谷朝倉氏遺跡朝倉義景館跡庭園　18002

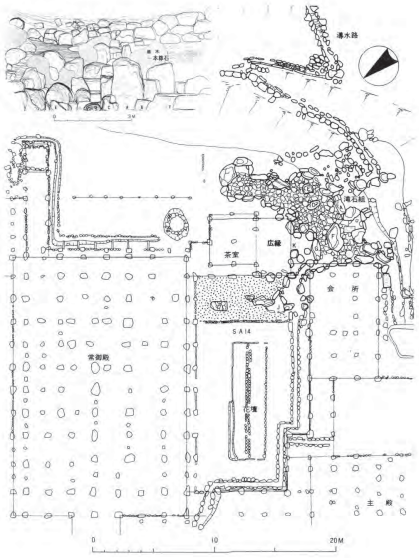
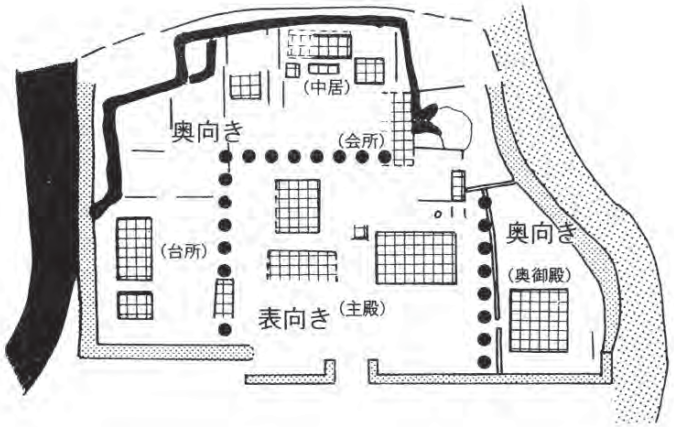


図-2　義景館跡庭園平面図・立面図

出典　特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡：発掘調査整備事業概報　Ⅳ　昭和47年度
遺跡学研究　第9号

39

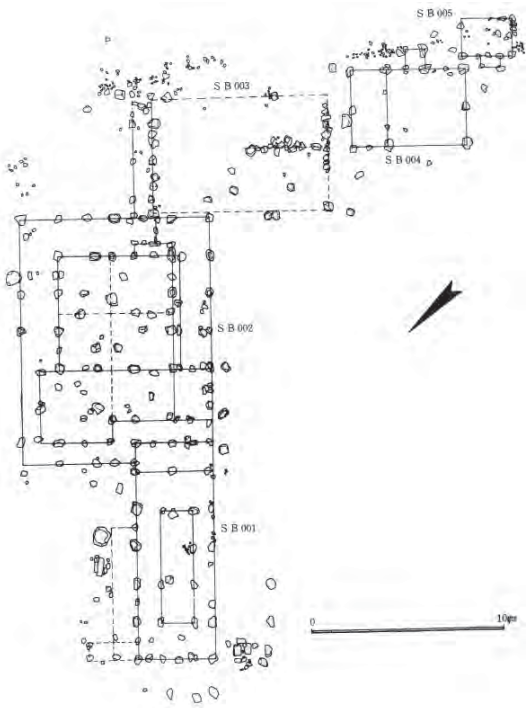
4-2-2、吉川元春館跡



第1-6図　吉川元春館跡の空間構造想定図

4-2-3、名護屋城の豊臣秀保館

名護屋城跡豊臣秀保陣跡庭園　41001



礎石建物実測図

4-3. 結論

第 1 章と第 2 章の検討を合わせて考察すると、永禄年間の御成において幕府権力の衰退によって寝殿と会所の機能が主殿に集約されたことにより、会所の機能が主殿に吸収され、御成がなかった織豊期を経て江戸幕府の成立で将軍の御成が復活した際に、主殿から生まれた広間が会所の機能を継承したと考えられる。

つまり、中世末期に会所の機能が主殿に吸収されたことで御成における会所の機能は広間に移ったと考えられるのである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計3件

１．著者名 藤田盟児ほか	４．発行年 2022年
２．出版社 晶文社	５．総ページ数 241
３．書名 和室礼賛	

１．著者名 藤田盟児ほか	４．発行年 2022年
２．出版社 建築資料研究社	５．総ページ数 232
３．書名 あこがれの住まいとカタチ	

１．著者名 藤田盟児ほか	４．発行年 2020年
２．出版社 平凡社	５．総ページ数 369
３．書名 和室学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関